

総評大会の決定を

実践に生かそう

第二八回定期大会

総評第二八回定期大会は、七月三〇日より五日間東京文芸会堂で開催された。

今年度の運動方針の原案は、反戦平和(ベトナム戦争反対)の斗争と反合理化斗争を基調とし、来年度の大規模な春闘方針(重化学産業を先頭に立てる)とその他の諸斗争を結合させ、本年の斗争をより発展させるためには、全日労、官公労等の予算獲得斗争ならびに生命を守る斗争として三池の連帯、被災者の斗争を組み入れ、秋闘斗争を組織し、これを春闘の前段斗争として位置付けることその他政治的な国際的な労働戦線は従来と変えていない。

このような方針に基づいて、特に論議が集中された問題は、1、政党支持問題をめぐって「社会党強化」についての商業新聞紙上の太田、岩井談話等が論議され、最終的には今後社会党を強める原案を確定し、党員拡大運動を積極的に取り組むことになった。

2、平和斗争の進め方について総評の基本方針は、当面ベトナム戦争反対の四、〇〇〇万署名運動を成功させることに最重点をおき、活動家を中心に実行委員会等の組織づくりを積極的行ない、あらゆる平和斗争をその中に吸収する考えである。これに対して平和斗争はあくまで「安保共闘」再開を主張する意見が出されたが、産業別・単座組合の反合理化斗争を追及するなかで「反戦斗争」を結合する原案が決定された。

3、春闘・最賃・時短等について

は、斗争の経験を含有意義な意見も出されたが、原案通り決定された。

4、生命を守る斗争については、あくまで本腰を入れて闘うべきであるという意見が真剣に各単座代表から相次ぎ出され、岩井局長は方針書の主旨のみならず、総評としての不退転の決意が表

ベトナム戦争即時停止

被爆二〇周年原水禁大会

広島に原爆が落とされて二〇周年の八月六日、原水禁禁止世界大会に三池労働組合も参加するため五日に出発した。

原水禁国民会議は、五日午後五時四〇分から「ベトナム戦争即時停止を要求する行動決起大会」が各国代表三四名を含めた約六千人を集めて、かつたに重大な意義をもつ世界大会を成功させるために開催された。

とくに大会では、原水禁禁止世界大会の意義を、直接アメリカの原子爆弾が投下された被爆地広島市民のものにするために、大会参加者全活動家により二一一票の署名獲得運動の決議がなされ、散会後二日間に行われたい署名活動がおこなわれた。

署名は五千三百三十三集約され、署名活動の体験談が発表された。そのなかで「ある広島市民の主婦の被爆者は、子ども二人が爆死しました。みなさんのこの種の署名が毎年夏になるとおこなわれますが

のものとして意義深いものであった。

また例年によつて多数の外国組合代表者が来賓として出席され、それぞれの立場でメッセージと総評に対する記念品が贈呈された。

いづれも自国の運動の考え方と総評の方針をたまたたけ、中国総工大会代表は「総評の運動方針はあきまじりであり、反対である」と発言したことは異端でもあった。大会場から騒然たるヤジが飛んだことも本大会の一面面でもあり、日本の労働運動も他国の運動の模倣や機械的な導入を克服し、一方では自立しつつ労働者階級の解放を追及する熱意をうけとめることができた。

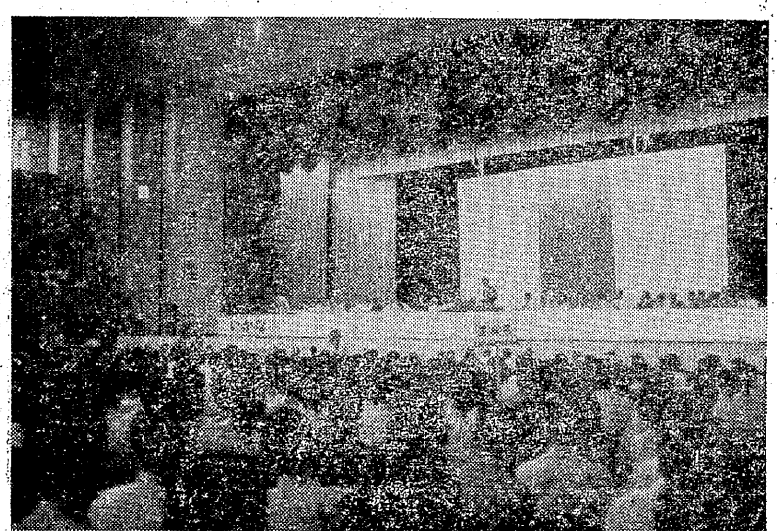
大会の意義を、第一に、ベトナム戦争の即時停止を要求する行動である。第二に、広島・長崎の被爆と人間悲劇の真相を国民の体験として定着させ運動の基礎にすることである。と演説した。

被爆二〇周年原水禁禁止世界大会のスローガンとして

大会の意義を、第一に、ベトナム戦争の即時停止を要求する行動である。第二に、広島・長崎の被爆と人間悲劇の真相を国民の体験として定着させ運動の基礎にすることである。と演説した。

被爆二〇周年原水禁禁止世界大会の意義を、第一に、ベトナム戦争の即時停止を要求する行動である。第二に、広島・長崎の被爆と人間悲劇の真相を国民の体験として定着させ運動の基礎にすることである。と演説した。

被爆二〇周年原水禁禁止世界大会の意義を、第一に、ベトナム戦争の即時停止を要求する行動である。第二に、広島・長崎の被爆と人間悲劇の真相を国民の体験として定着させ運動の基礎にすることである。と演説した。



—8月6日、広島での原水禁世界大会—

全国まなぶ

読者大会に参加して

三池にまなぶ会と三池とは、馴染み深い、まなぶの主催する、第三回全国まなぶ読者大会が七月三十一日より二泊三日の日程で、福島県裏磐梯にて、開かれました。このように、まなぶを介して、全国の仲間が、一年の斗争の成果や、直面している問題等を、ひっきりと八〇余名の、若い仲間たちが集い、湖面をつたわる涼風と明るい太陽の下で、これからの運動をなうにたる展望を語り、活発な議論が交わされました。そこで私たちは各地の仲間たちに三池の斗争を訴え、映画、地底の叫びを、みんなに見てもらいました。



福島県裏磐梯に集った各地の若ものたち

これは事実だ、と確認され今後の斗争としては、職場や地域において、身近なものでの権利斗争をほり起し、ゆり動かすことによつて全体的なものとして行く運動が、次のものとの斗争の姿勢を作ることではないだろうか。それととも三池の長期抵抗路線が、少しいつ認識されその斗争の正しさがあるの拡がりとするのが今後の斗争である。

経済白書

四〇年度の「経済白書」が発表副題は「安定成長の課題」。昨年は「輸出力の強化で高度成長」が力説された。その一年、輸出は伸びたが海外からの借金も多くなり、外貨は減少、企業は倒産、「合理化」、生活は収入の伸びが鈍り、消費物資の高騰で四苦八苦。「白書」によればこれは政策のまずさではなく「需要にさらされて供給力が先行しているため。そこでこれから「賃金引き上げは物価上昇を招かないよう」にするという、公債発行など独占資本への財政援助を強めて輸出増大など需要を起す積極策を講ずることを主張。政府のマネ(税金)をたっぶり使つてもうけることを肯定した。トシ政府のPR版だ。

火花

俺たちの職場に闘いを！

七月、来た事を生かすためには、私たちが職場でほんとうの職場斗争を進めたいと思う。三池労働組合も新労対する働きかけをやって統一への展望を切り開いてもらいたい。そして交流を通じて得たものを自身の生活態度をあらためる年代の、それも県内の同胞が労働者のとりで、大黒柱三池のはたを最後まで頑張って守ってほしい。私たちは三池の火を燃やすために、職場斗争を徹底的に行います。そして私たちのまわり、腹を断ち割って話し合う場をつくり、自分自身の斗争を厳しくみつめたい。単なる物語ではない実践をやりたい。

小倉市外 嶋山 実さん(23才)

合理化について家族を含めた斗争になっている点について、端的にいうと、組合員一人一人が本当に労働者なんだという意識がじかに感じられた。その点を庄司さんやふんいきに、ただ感謝するのみ。三池に

吉村 勝さん(21才)

いろいろな側面ないところが今後またまたやるべきところがある物議ではない実践をやりたい。

久松 亮さん(24才)